

■東京プリンセス賞(S I)アラカルト(過去全 30 回の分析)

※第 16 回、第 17 回は 1790m で実施

※記録は平成 29 年 4 月 6 日時点

■単勝 1 番人気で優勝を果たした馬は 5 頭だけ

過去 30 回の優勝馬 30 頭中、単勝 1 番人気馬は 5 頭だけで、勝率は 16.7%にとどまっている。2 着は 7 回、3 着は 6 回あるものの、もっとも前評判の高い馬がなかなか勝ち切れないレースと言えるだろう。

■“三冠馬”は 1 頭、“二冠馬”は 8 頭

東京プリンセス賞が創設され、南関東 3 歳牝馬クラシック競走が現在の体系となった後に限ると、対象の 3 レース(桜花賞、東京プリンセス賞、関東オークス)をすべて制して“三冠馬”となったのは平成 18 年のチャームアスリープのみだ。なお、対象 3 レースのうち 2 レースを制した“二冠馬”は、平成 5 年のホワイトアリーナ(桜花賞、関東オークス)、平成 6 年のケーエフネプチュン(関東オークス、東京プリンセス賞)、平成 7 年のヘイワンリーフ(関東オークス、東京プリンセス賞)、平成 9 年のシルバーアクト(桜花賞、関東オークス)、平成 13 年のナミ(桜花賞、東京プリンセス賞)、平成 17 年のテンセイフジ(東京プリンセス賞、関東オークス)、平成 21 年のネフェルメモリー(桜花賞、東京プリンセス賞)、平成 24 年のアスカリーブル(東京プリンセス賞、関東オークス)と、これまでに 8 頭いる。

■船橋所属馬が 14 勝をマーク

過去 30 回の優勝馬 30 頭を所属別に分類すると、大井所属馬は 9 頭、船橋所属馬は 14 頭、川崎所属馬は 7 頭だった。現在のところ浦和所属馬の優勝例はない。

■外国産馬は未だ優勝例なし

外国産馬の最高着順は 3 着(第 21 回のピュアーフレーム)で、現在のところ優勝例どころか連対例もない。ちなみに、大井で施行される 3 歳クラシック競走(羽田盃、東京プリンセス賞、東京ダービー、ジャパンダートダービー)のうち、外国産馬の優勝例がないのはこの東京プリンセス賞だけである。

■騎手別の勝利数は「4」が最多

騎手別の勝利数を見ると、4 勝をマークした今野忠成騎手が単独トップである。なお、2 位は 3 勝をマークしている石崎隆之騎手だ。

■調教師別の歴代最多勝記録は「4」

調教師の別勝利数を見ると、4勝をマークした川島正行調教師が単独トップである。なお、現在のところ3勝の調教師は存在せず、2勝の足立勝久調教師、川島正一調教師、後藤稔調教師が2位タイだ。

■勝利数が多いのは内寄りの枠

枠番別勝利数を見ると、8勝の「1枠」と「3枠」がトップタイである。なお「2枠」が6勝、「4枠」も3勝している一方で、「5枠」と「8枠」は各2勝、「6枠」は1勝、「7枠」は0勝となっており、全体的に内寄りの枠が優勢だ。

また、馬番別勝利数を見ると、トップは6勝の「1番」だった。対照的に、9番から外の馬番は「11番」「13番」「14番」が1勝ずつしているだけで、残る「9番」「10番」「12番」「15番」「16番」はいずれも未勝利である。

<伊吹雅也>